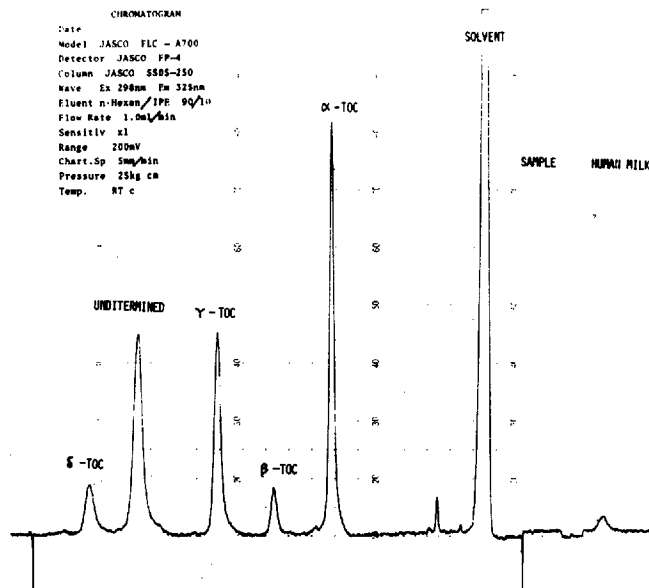


図3.



母乳中のトコフェロール同族体量

初乳，移行乳，成熟乳について，数例の検討を行った段階ですので，傾向について報告すると，α-トコフェロールは初乳，移行乳では，あまり差がなく，成熟乳ではα-トコフェロールが減少しているという結果です。 (調査協力者 米 沢)

母乳中の水溶性ビタミンB₁，B₂，C

分担研究者 (岩手医科大学小児科) 若 生 宏
 研究協力者 (岩手医科大学公衆衛生) 角 田 文 男
 調査協力者 畠 山 富 而

最近の食餌性組成の変遷を背景として母乳中の水溶性ビタミンの中からB₁，B₂，Cの測定を行っている。

測定方法

- B₁ : チオクロール蛍光法
- B₂ : ルミフラビン蛍光法
- C : ヒドラジン比色法

検体は母乳一般組成(I)の場合と同様のサンプルを使用した。

結果：(表14) 移行乳においては例数が少ないが，山間B₁ (μg/1100ml) 14.2，

B₂ (μg/100ml) 25.6, C (mg/100ml), 2.57, 町, B₁ 11.4, B₂ 28.4, C 3.0であった。成熟乳においては, 山間: 3検体の平均値として, B₁ 18.8, B₂ 27.4, C 3.8, 町: 3地区, 4検体の平均値, B₁ 16.9, B₂ 26.6, C 4.2であった。この数値を齊藤らの報告と比較すると, B₁ は高値を示し, B₂, Cはやや低値を示した。

今後, サンプル数を増して検討を加えて行きたい。

なお脂溶性ビタミンのDについて神戸女子薬科大学, 小林正教授に測定をお願いしたが60 IU/1000ml (1.5 mg/100ml) の結果を得ている。

表14.

母乳中の水溶性ビタミン

母乳 地域 ビタミン	初乳 (移行乳)		成熟乳			
	山間	町	山間	町		
	(岩泉)	(安代)	(岩泉)	(石馬谷)	(紫波)	(八種)
B ₁ mg	14.15	11.35	14.71 17.26 24.40 18.79	18.89	14.01 17.24 16.86	17.31
B ₂ mg	25.61	27.93 28.81	29.17 29.80 23.18 27.38	26.40	13.87 29.64 26.56	36.47
C mg	2.57	2.36 3.54	3.87 3.67 3.71 3.75	4.53	2.98 5.16 4.19	4.09

(100ml)

() 平均値

ビタミンEの生理作用からみた母乳の特徴に関する研究

研究協力者 (大阪医科大学小児科学教室) 美濃 真

研究目的: ビタミンEの生理的役割に関する最も重要な機構は, 生体膜の酸化的障害からの防禦であると考えられている。天然には, α, β, γ, δのTocopherol同属体が存在するがヒトに対しビタミンE活性をもっているものはα-Tocopherolである。最近高速液体クロマトグラフィ(HSLC)の出現により生体資料のTocopherol同属体の分析が容易となった。今回HSLCを用いビタミンEの同属体の分離を人乳と粉乳とについて測定し, その差異を検討するとともに,

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

最近の食餌性組成の変遷を背景として母乳中の水溶性ビタミンの中から
B1, B2, Cの測定を行っている。

測定方法

B1: チオクロール蛍光法

B2: ルミフラビン蛍光法

C: ヒドラジン比色法

検体は母乳一般組成(1)の場合と同様のサンプルを使用した。